

きょうだい関係と性格特性に関する研究

武田京子*

(1994年12月8日受理)

Kyoko TAKEDA

Siblings Effects on Chracterization

きょうだい関係に関して児童とその保護者を対象として、実態と認識、きょうだい間で形成される性格特性について検討した。

その結果、以下の結論を得た。

1. 2人きょうだいが大半を占める。
2. 理想のきょうだい数は、現状の数プラス1である。
3. きょうだいの意義について、児童は現時点の、保護者は長期的な見方をしている。
4. きょうだいの形態別に性格特性が見られた。

[キーワード] きょうだい、ひとりっこ、きょうだいげんか、性格特性

I 目 的

一人の女性が、一生の間に産む子どもの数を大まかに表す数字として使用される合計特殊出生率が、1989年に1.57となり、史上最低となったため社会問題となったことは記憶に新しいが、合計特殊出生率はその翌年も減少を続け1.54となった。

また、厚生省人口問題研究所では、昭和15年以降大規模な出産力調査を行っているが、予定子ども数(調査時点の生存子ども数に追加予定数を加えたもの)は、昭和52年以降常に2.2人ないし2.3人である。落合氏は『21世紀家族』に於て、戦後の出生率の低下について1949年のベビーブーム直後と70年代半ばの2回を指摘し、その変化の過程の中で「結婚した場合には、子どもが2人」の家庭像がパターン化したと述べている。毎年行われている子どもに関する多数の調査を参照すると、子どもの数などに多少の増減はあるものの、落合氏の考えは大勢の考えとして受け入れられていることがわかる。

出生子数の減少はきょうだい数の減少を意味しており、家庭生活のなかで経験する人間関係が希薄になり、性格形成や社会性の発達に大きく影響を与える要因として考えられる。

* 岩手大学教育学部家政科

きょうだいに関する研究については、依田 明氏の一連の研究がある。1963年、1980年にはふたりきょうだいを対象に、1984年には3人きょうだいを対象に出生順位と性格の関連について調査分析を行い、ほぼ同様の調査結果を得ている。出生順位と性格の間には明確な関連があり、生育環境の差違と、わが国のきょうだいをめぐる文化によって生じたものと考えられた長子的性格、末子的性格、中間子的性格、女子的性格、男子的性格というものが存在することが明らかになった。

子どもの発達にとって、きょうだいの存在はどのような意味を持っているのか、を明らかにするために、きょうだいの意義、日常場面でのきょうだいの様子、子どもの性格について、子どもとその保護者を対象に調査を実施した。また、依田氏の分類した性格パターンが現在の子どもにもあてはまるのか調査をおこなった。

II 調査方法

きょうだい認識については、きょうだいの実態、呼称、評価、きょうだいげんか、関係認知について問い、性格特性を調査する項目は依田氏が明らかにしたそれぞれの性格特性と依田氏の調査項目を精選し30項目とした。それぞれ、日常生活場面でよく見られる内容であり、あてはまるものに○、あてはまらないものに×を記入してもらった。

調査対象は、盛岡市立青山小学校の5・6年在籍の児童と保護者とし、有効回答はそれぞれ、児童279、保護者258であった。調査は1992年8月に実施した。児童については授業時間内に一斉に調査した後、児童分を回収し、残りの保護者分は家庭に持ち帰り、回答後、封筒にいれて回収した。

III 結果及び考察

1. きょうだいのある児童

(1) きょうだいの実態 (表1)

279名中、2人きょうだい140名(50.2%)、3人以上のきょうだい110名(39.4%)、ひとりっこ26名(9.3%)であった。

【表1：きょうだいの実態】

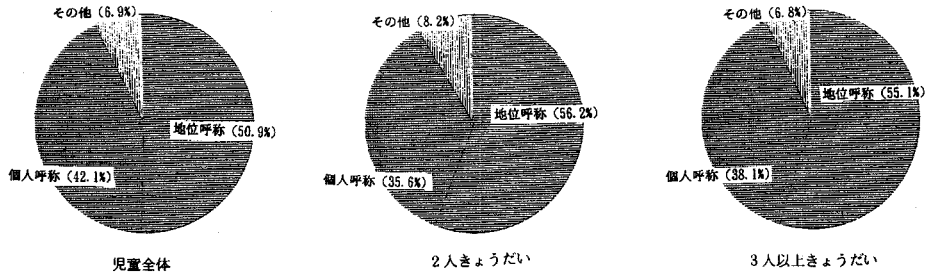
	1人	2人	3人以上	計	
5年	14(9.7)	74(51.4)	56(38.9)	144	
6年	12(9.0)	66(50.0)	54(40.9)	132	
合計	26(9.4)	140(50.7)	110(39.9)	276	人(%)

(2) きょうだい間の呼称 (図1)

日常生活では、年下の子が年長のきょうだいを「おにいちゃん」「おねえちゃん」と呼

ぶ場合が多い。欧米諸国ではファーストネームかニックネームで呼ぶのが普通である。これは、きょうだいは、平等で同格であるとみなしているからであり、一方、わが国では、役割意識や長幼の序の現れと見ることができる。

【図1：きょうだい間の呼称】



全体の約半数141名 (50.5%) が「おにいちゃん」「おねえちゃん」の役割呼称を用いているが、きょうだい数別に見ると、3人以上のきょうだいの場合にニックネーム・個人呼称が僅差で上回った。2人きょうだいの場合は地位役割関係が一目瞭然と呼称として固定化するが、3人以上の場合には個人にとっての関係ときょうだい全体の関係が同一でなく混乱が生ずるため、地位役割関係の呼称が固定化しないためと考えられる。しかし、設問の「きょうだい間ではどう呼び合っていますか？」を「年下の子が年上の子を呼ぶときにはどう呼んでいますか？」と地位役割関係に着目して質問した場合には異なった結果が得られたと考えられる。

(3) きょうだいの良い点、悪い点とその理由 (表2-1, 表2-2)

長所、短所とも高い割合でその存在を認めている。女子の90%以上が「良い点がある。」と感じ、3人以上きょうだいが「嫌な点・困った点がある。」と感じている。きょうだい数が多くなるほど人間関係が複雑になり、よいこともたくさん経験できるが、困難な(個人にとっては不快だと感じる)経験もしなくてはならなくなる。その結果、社会性の発達を促し、より豊かな人格形成が行われるのである。

【表2-1：児童の見たきょうだいの良い点、悪い点】

	良い点あり	良い点なし	悪い点あり	悪い点なし	
全体	230(82.4)	48(17.2)	222(79.6)	50(17.9)	
男子	95(73.8)	32(24.6)	94(72.3)	31(23.8)	
女子	135(90.6)	12(8.1)	126(84.6)	19(12.8)	
2人	123(87.9)	17(12.1)	111(79.3)	27(19.3)	
3人	94(85.5)	14(12.6)	98(89.1)	12(11.8)	人(%)

きょうだいがいて良かった・悪かったと思う点の具体的内容としては以下のような内容が挙げられた。

【表2-2：その理由】

良いと思う点	悪いと思う点
①にぎやかで楽しい ②一緒に遊べる ③話し相手がいる ④兄姉にいろいろ教えてもらえる ⑤協力しあえる	①きょうだいげんかをする ②責任を押しつける ③うるさい ④テレビのチャンネル争いをする ⑤兄姉に便利につかわれる ⑥自分の分け前がすくなくなる

(4) 理想のきょうだい数とその理由 (表3-1) (表3-2)

【表3-1：児童の理想とするきょうだい数】

	1人	2人	3人	4人	5人	6人
全体	9.3	28.3	39.4	15.8	5.0	3.2
男子	13.8	26.2	36.2	20.0	4.6	2.3
女子	4.7	31.5	43.6	15.4	5.4	4.0
2人	7.1	32.1	48.6	8.6	5.0	1.4
3人	9.1	16.4	37.3	29.1	6.4	6.4

(%)

【表3-2：理想のきょうだい数の理由 (児童)】

1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
・静かでよい ・けんかしないでよい ・独占できる ・今のままがよい ・独りが好き ・いじめられなくてよい	・丁度良い ・独りはさびしい ・協力できる ・一緒に遊べる ・仲間はずれがない ・楽しい ・弟(妹)がほしい ・自分がそうだった ・親に丁度良い	・楽しい ・相手が多い ・丁度良い ・2人はつまらない ・弟(妹)がほしい ・1人は止め役 ・兄(姉)がほしい ・なんとなく ・昔はそうだった ・いとこがそうだから	・にぎやか ・2対2になれる ・弟(妹)が欲しい ・協力できる ・丁度良い	・いっぱい楽しい ・弟(妹)がほしい	・楽しい

多
↑
↓
少

全体的に見ると3人きょうだいを理想としている。3人以上のきょうだいの場合、3人きょうだい・4人きょうだい、2人きょうだいの順になっている。全体の傾向を見ると現数プラス1人のきょうだい数を理想としている。きょうだいの価値を見だし、さらにより豊かなきょうだい関係を望んでいるといえる。理由には、「にぎやかで楽しい」「弟(妹)が欲しい」など自分を中心とした現実的な理由を挙げている。

(5) きょうだいげんかについて

【表4-1：児童の見たきょうだいげんかの頻度】

	毎日	時々	たま	シナイ	
全体	21.9	38.0	25.1	3.9	
男子	14.6	33.1	30.0	3.1	
女子	27.5	40.3	20.8	3.4	
2人	20.7	40.7	30.7	3.6	
3人	27.3	43.6	25.5	3.6	(%)

【表4-2：けんかの理由と頻度】

理由の内容	数
ちょっかいを出す・出される	58
ものの取り合い	51
テレビのチャンネル争い	40
悪口を言う	27
ゲーム・遊びをしていて	19
うるさいから	18
意見のくいちがい	18

きょうだいげんかの実態(回数・原因)は表4-1、表4-2に示したとおりである。時々、ささいな理由でけんかは始まるが深刻なものではない。きょうだいはけんかの中で、競争・奪い合い・いじめ・からかい・悪口などのいわばマイナス経験をし、その結果、相手の気持ちを思いやったり、相手の立場を考えたりする経験を積み重ね、自分以外の人との人間関係をつくるための学習を重ねていく。つまり、きょうだいげんかを通して、児童は自分と違う人間の存在を認識し、対応の方法を学んでいくと考えられる。また、子ども一人一人に個室が与えられている現代では、きょうだいげんかは「きょうだいのふれあいの場面」と考えることもできる。

【表5：児童の見た、両親のけんかへの対応(%)】

<父親>	公平	自分	相手	場合	黙認	無答	<母親>	公平	自分	相手	場合	黙認	無答
	全体	20.1	3.2	7.9	28.3	10.0		12.9	全体	24.7	2.2	12.9	31.5
男子	16.2	2.3	8.5	25.4	8.5	16.2	男子	26.2	1.5	12.3	24.6	2.3	8.5
女子	22.1	5.4	6.0	30.9	12.9	9.4	女子	24.2	2.7	12.1	36.9	6.7	8.7
2人	20.7	6.4	7.1	28.6	10.7	14.3	2人	28.6	2.1	14.3	33.6	5.0	10.0
3人	23.6	1.8	8.2	34.5	11.8	14.5	3人	25.5	2.7	11.8	37.3	6.4	9.1

保護者の対応(表5)に対する児童の評価は全体に見ると、「親たちは自分たちのけんかについて、時と場合に応じて公正な扱いをしている。」と考えている。しかし、2人

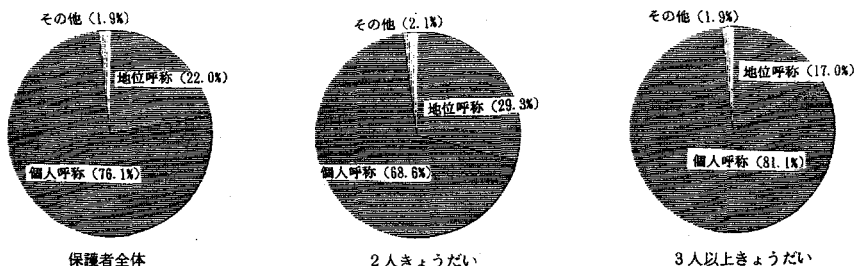
きょうだいの中には、「母親は相手の味方をしている。」と考えているものが14.3%あり、児童の心の中に不平等感を生み出していることは無視できない。

2. きょうだいのある児童の保護者

(1) 子どもの呼称 (図2)

親(保護者)が子ども(児童)をどのように呼んでいるか。2人きょうだい、3人以上のきょうだいであっても、個人呼称より地位役割呼称が多い。きょうだい数が多い方がその割合は高く、役割期待も大きいと考えられる。

【図2：子どもの呼称】



(2) きょうだいの良い点・悪い点とその理由 (表6-1, 表6-2)

【表6-1：保護者の見たきょうだいの良い点, 悪い点】

	良い点あり	良い点なし	悪い点あり	悪い点なし	人(%)
2人	125(93.3)	9(0.7)	54(40.0)	70(51.9)	
3人	100(99.0)	0(0.0)	48(47.5)	50(49.5)	

【表6-2：その理由】

良いと思う理由	悪いと思う点
①話し相手がいる ②一緒に遊べる ③兄姉にいろいろ教えてもらえる ④協力しあえる ⑤にぎやかで楽しい	①きょうだいげんかをする ②うるさい ③責任を押しつける ④テレビのチャンネル争いをする ⑤兄姉に便利に使われる ⑥取り分が少なくなる

保護者の立場から見て、きょうだいの良い点・悪い点の有無とその理由を問うた。殆ど全員がきょうだいの存在を良いものにとらえている。悪い点(困った点)は、半数以上が無いとしている。自分の産んだ子どもに対して「悪い点」を見いだすのには、親として抵抗があるのだろう。「すべてのことを子どもの成長の糧として捉えているので、悪い点は

ない。」と回答する保護者があった。

それぞれの理由については、児童に対する調査と同一の項目が挙げられているが順序に順位に微妙な違いが見られた。

(3) 理想のきょうだい数とその理由 (表7-1) (表7-2)

【表7-1：保護者の理想とするきょうだい数】

	1人	2人	3人	4人	5人	6人
ひとりっこ	0	22.7	63.6	4.5	0	0
2人	0	26.7	54.1	15.6	3.7	1.5
3人以上	0	5.9	57.4	33.7	9.9	6.9

(%)

【表7-2：理想のきょうだい数の理由 (保護者)】

2人	3人	4人	5人	6人以上
<ul style="list-style-type: none"> ・丁度良い ・独りはかわいそう ・経済的理由 ・協力しあえる ・話し相手がいる ・楽しい ・親の都合 ・自分がそうだった ・自分は多くて嫌だった 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりが育つ ・丁度良い ・多い方が楽しい ・協力し合える ・話し相手がいる ・1人が止め役 ・自分がそうだった ・遊び相手 ・けんかができる ・自分は少なかった ・別の性の子が欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・2対2になれる ・思いやりが育つ ・楽しい ・公平に扱える ・自分がそうだった ・遊び相手が多い ・自分は少なかった ・親の両手に1人ずつ ・親として成長できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりが育つ ・多い方が楽しい ・自分は少なかった ・遊び相手が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりが育つ ・にぎやかで楽しそう

多 ↑

↓ 少

児童に対する調査と同様、3人きょうだいが理想であるとしている。3人以上きょうだいの保護者は3人以上を理想と考えている割合が高い。ひとりっこの保護者は、どの保護者よりも3人以上を理想としている。また、「ひとりっこを理想」と回答した保護者はなかった。

理由には、自分の子ども時代の経験や児童自身の将来を見通した観点から、「自分がそうだったから（自分は少なかったから）」「きょうだいの中で助け合えるから、多い方がいい」「体験が豊富で思いやりが育つ」が挙げられた。

(4) きょうだいげんかについて (表8-1) (表8-2) (表9)

【表8-1：保護者の見たきょうだいげんかの頻度】

	毎日	時々	たま	シナイ
2人	36.3	34.1	17.8	5.2
3人	43.6	36.6	15.8	2.0

(%)

【表8-2：けんかの理由と頻度】

理由の内容	数
ささいなことで	43
テレビのチャンネル争い	29
ものの取り合い	28
食べ物の取り合い	19
意見のくいちがい	19
ちょっかいを出す、出される	18
遊んでいるうちに	18

【表9：保護者のきょうだいげんかへの対応】

	公平	自分	相手	場合	黙認	無答
2人	34.8	-	-	47.4	11.9	-
3人	22.8	-	1.0	58.4	17.8	1.0

(%)

保護者は児童とは違って「毎日している」と受け取っている。原因は児童と同様ささいな理由である。保護者のけんかへの対応は、「公平に」「時と場合によって判断する」の回答が大半を占め、きょうだいの一方を限定して味方することはないとしている。

3. ひとりっこの児童と保護者

(1) ひとりっこの良い点悪い点と理由 (表10-1) (表10-2)

【表10-1：ひとりっこの良い点、悪い点】

	良い点あり	良い点なし	悪い点あり	悪い点なし
児童	15(57.7)	11(42.3)	15(57.7)	10(38.5)
保護者	15(68.2)	6(27.3)	19(86.4)	3(13.6)

人(%)

児童も保護者も「ひとりっこには良い点がある」としているものの、児童の4割が「良い点はない」としている。また、保護者の9割が「ひとりっこは望ましくない」と考えて

いる。

【表10-2：その理由】

良いと思う理由

<p>< 児童 ></p> <p>① じゃまされずに自分のことができる</p> <p>② いろいろ買ってもらえる</p> <p>③ 何でも独り占めできる</p> <p>④ お小遣いがたくさんもらえる</p>	<p>< 保護者 ></p> <p>① じゃまされずに自分のことができる</p> <p>② 何でも独り占めできる</p> <p>③ いろいろ買ってもらえる</p> <p>④ お小遣いがたくさんもらえる</p> <p>④ お金がかからない</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

悪いと思う理由

<p>< 児童 ></p> <p>① 遊び相手がないのでつまらない</p> <p>② 話し相手がないので寂しい</p> <p>③ 勉強を教えてもらえない</p> <p>③ わがままになる</p>	<p>< 保護者 ></p> <p>① 話し相手がないので寂しい</p> <p>② わがままになる</p> <p>③ 遊び相手がないのでつまらない</p> <p>④ 勉強を教えてもらえない</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

児童が良いと挙げる理由は、「じゃまされない」「いろいろ買ってもらえる」など独占・無競争を意味することである。保護者は、「その他」の自由記入の欄に「お金がかからない」とするものが多かった。悪い点は児童も保護者も「話し相手」「遊び相手」などの日常生活を楽しくする経験を共にする相手の欠如、「わがままになる」という理由を挙げているものの「けんか相手」「我慢や譲り合いの経験ができる」といった長期的には児童のプラスになるが、その時点では不快な経験となるものは挙げていない。

(2) 理想のきょうだい数とその理由 (表11-1) (表11-2)

【表11-1：ひとりっこの児童と保護者の

理想とするきょうだい数】

	1人	2人	3人	4人	5人	6人
児童	23.1	69.2	7.7	-	-	-
保護者	-	22.7	63.6	4.5	-	-

(%)

【表11-2：その理由】

	児 童	保 護 者
1人	<ul style="list-style-type: none"> ・今のままでよい ・うるさくない ・けんかしないでよい 	
2人	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び相手がいる ・1人ではつまらない ・にぎやかになる ・相手がいる ・3人は多い ・ちょうどよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し相手がいる ・助け合える ・楽しくなる ・ひとりっことはさびしい
3人	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び相手がいる ・1人ではつまらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合える ・にぎやかで楽しい ・自分がそだった ・話し相手がいる ・1人ではけんかができない

児童は2人きょうだいを理想とし、保護者は3人を理想としている。保護者は1人を理想と回答したものがないのに対して、児童の2割がひとりっこと回答している。現実的な経験が無いためか現状に満足し、けんかはしたくない、自分の世界をじゃまされたくないひとりっことも存在している。

4. 性格の特性

性格特性を表す項目のうち、あてはまると思うものを選択された多い順に表12-1にまとめた。それぞれの代表的な性格特性および児童と保護者の見方の相違点を明らかにする。(本文中*のあるものは、依田氏がそれぞれの性格の特徴の項目の中に含まれていたもの。今回の調査ではきょうだいの分類を依田氏と同一におこなえなかったため、比較検討は行わなかった。)

【表12-1：児童及び保護者の見た性格特性（数字は順位）】

	児童						保護者							
	2人きょうだい			3人以上きょうだい			ひとり	2人きょうだい			3人以上きょうだい			ひとり
	全体	長子	末子	長子	中間子	末子	っこ	全体	長子	末子	長子	中間子	末子	っこ
全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女	全男女
①食事の好き嫌い							10 5		11		9			12
②外遊びがすま	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1 0	1 1 1	1 3 1	1 1 3	1 1 3	3 1 5	1 1 2	3 1	1 1 1	1 1 2	1 2 3
③おしゃべり	2 2 2	2 2 2	2 2 2	2 1 5	2 7 1	5 5 2	3 3 5	2 2 2	1 2 1	4 5 4	1 2 1	2 3 1	3 5 3	2 5 1
④おしゃれ								12 9	12 9	3 1 4		8		7 9 10 6
⑤ほがらからで陽気								6 6 6	6 9 5	6 3	7 7 8	5 9 4	8	7 8 3
⑥お小遣いはすぐ使う	13 8	11	8 8	3	10 10		9 3	13 8	6	7	8	9 4	6 3	9
⑦気に入らないと黙る	11 13 13	10 12	8	5 7 10			7 5 10	4 12 7	10 11 11	9 7 6	7 8 8	7	6 7 8	9 10 6
⑧恥ずかしがりや	5 4 6	7 8 6	5 8	9 5 4		2 1 6	3 3 5	4 4	2 3 1	5 3	9 8	4 1 7	3 1 8	3 2 6
⑨他人に親切		13 13		1			10 11	3 3 1	4 4 3	1 3	6 5 8	3 4 3	2 4 1	3 7 1
⑩気持ちの切り替え	7 10 7	5 3 7	7 10 8		4 7 3	7 7 7	10 1	13	10	7 5	4		7	
⑪やさしもちやき								9				11		
⑫親によく叱られる	3 3 4	4 4 4	4 3 4	3 3 1	3 1 4	3 2 4	5 3 9	8 9	5 6 5		3 5 1	8 4 7		3 1 1 2
⑬几帳面							10							
⑭聞き手になる	12 10	10	12 8	10	7 3		2 3 3							
⑮丁寧に取組む	8 7 11	7 7 11	8 10	6 10 5	8 3		6 3 9				4	4		
⑯面倒なことほさける	9 5	9 8	6	9 7	6 3 9	7 7	8 1	5 5 5	8 4	1 1 1 1 8	1 2 1	5 4 6	5 6 5	6 5 6
⑰見通しを立てて行う	6 8 5	5 5 5	3 3 3	5	10 7	7	3 1 2 1	10 10		7 7 8	10		6 7 8	9 3
⑱大人に甘える														
⑲告げ口をする				10	10									
⑳わがまま	11		6	9 3		7								
㉑困ると人に頼る					10 9	10 10		11	12 6	11				9 10 6
㉒他人の意見をまねる		12 10			10 4	10								
㉓椅子に乗る				3 3 10	10 4	10 7		7 8 11	7 5 12	10	3 2 4	5 9 4	10	7 2
㉔知ったか振りをする														
㉕欲しいと手に入れる				10			10 9							
㉖内弁慶	10 12 11	13 11	8 12 12	9 9	4 3 4	6 7 5	9	13 13 9		9 11 7		9 7	9 3	12
㉗寂もろい	9	9	8	6 10 5	4	10	9	11 7	10 5	7	10 4	9 9 11	9 5	13 6
㉘他人まかせ														
㉙問題文最後まで読む	4 6 3	3 5 3	5 3 7	6	8 10 9	3 3 2	9 5		9 11 9					
㉚男(女)らしく	8	8	5	9 1										12

【表12-2：児童及び保護者の見た性格特性・一致得点】

	長子	中間	末子	ひとり	計
男子	19.9	21.0	19.8	19.7	19.9
女子	18.8	19.4	18.6	20.2	18.8
全体	19.3	20.0	19.1	19.9	19.3

(1) 児童全体

「外で遊んだり騒ぐのがすき」「おしゃべり」は、児童・保護者ともに高位に選択された。児童は、「親によく叱られる」と感じている。男子は女子に比べ「お小遣いをもらうとすぐ使う*」と両者とも感じている。女子的な性格特性としては「悲しいことにすぐ涙をこぼす(涙もろい)*」を両者、「他人に親切」を保護者が、「女の子らしくしなさいとよく言われる」を児童が挙げている。

(2) 2人きょうだい

「テストの問題文は最後まで読む(慎重)」が男女ともに高い。長子の女子は、「慎重」で、「お小遣いは大切に使う」。末子の女子は「大人に甘ったれる」。

(3) 3人以上のきょうだい

全体では、他に比べて「人におだてられると、すぐ調子に乗りやすい」傾向がある。長子は「おしゃべり」「調子に乗りやすい」と児童・保護者が挙げ、児童は「男の子・女の子らしくしなさいとよく言われる」を挙げている。長子の男子には「面倒なことはさける*」長子の女子には「不得意なことでも丁寧に取り組む(努力家)」を両者が挙げている。末子は「恥ずかしがりや」「おすましや(内弁慶)」と児童・保護者が挙げ、末子男子は、最も「恥ずかしがりや」である。末子女子は「内弁慶」である。

(4) ひとりっこ

保護者は「子を叱っている」「おしゃれだ」と感じている。「食事に好き嫌いがある」「欲しいものは何でも手に入れる」に代表される、ひとりっこの一般的性格を挙げているのは児童の方である。男子の保護者は「よく叱っている」、女子の保護者は「おしゃれだ」「食事に好き嫌いが激しい」と感じており、女子は自分を「やきもちやきだ」「おしゃれだ」と感じている。

(5) きょうだい形態別、児童と保護者の評価の一致

30項目の性格特性の評価について、児童と保護者ともに同一の評価を1点、違う評価を0点として集計をおこない、性別、出生順位によって児童と保護者の相互理解に差があるかどうかを検討した。3人きょうだいの中間子男子の得点が僅差で1位となり、以下ひとりっこ女子、末子男子の順になった。きょうだいの中間子は親の関心は薄くなるのではないかと予測していたが、結果は異なった。回答の保護者は父親か母親か問わなかったので断言はできないが、回答者の大半は母親でなかったかと思われる。ひとりっこの女子の場合、母親との密接した関係が見られるが、一致が比較的高かったのはそのためと考えられる。

IV おわりに

2人きょうだいが調査対象の50%をこえた。きょうだいは本人にとって良い点もあり悪い点もある不可解な存在だが、悪い点とする、きょうだいげんかもささいな原因から起き

るものであり、長期的な視野に立てば、社会経験を積み人間性豊かな成長をもたらすものと考えられる。また、理想のきょうだい数は、3人きょうだいが4割を占めていたところから考えても、児童自身はきょうだいの存在を高く評価していることがわかる。

性格特性についてまとめると以下のようなになる。

ひとりっこ：食事に好き嫌いがある・おしゃれ・やきもち焼き

2人きょうだい長子：慎重・お小遣いを大切に使う

2人きょうだい末子：大人に甘ったれる

3人きょうだい長子：おしゃべり・調子に乗る・男(女)の子らしくしなさいと言われる

(男子) 面倒なことはしない

(女子) 他人に親切・努力家

3人きょうだい末子：恥ずかしがりや・内弁慶

本研究の調査にご協力をいただきました盛岡市立青山小学校の児童と保護者、関係教職員のみなさん、調査の集計および分析にご協力いただいた中居優子さんに深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 依田 明：「きょうだいの研究」 大日本図書 (1990)
- 2) 依田 明：「ひとりっ子・すえっ子」 大日本図書 (1988)
- 3) 依田 明・飯島一恵：「出生順位と性格」『家庭教育研究所紀要』2, P23-29 (1981)
- 4) 早川孝子・依田 明：「ふたりきょうだいにおけるきょうだい関係1」『横浜国立大学教育紀要』23集, P81-92, (1983)
- 5) 浜崎信行・依田 明：「出生順位と性格2-3人きょうだいの場合」『横浜国立大学教育紀要』25集, P187-196, (1985)
- 6) 福田孝子・依田 明：「ふたりきょうだいにおけるきょうだい関係2」『横浜国立大学教育紀要』26集, P143-154, (1986)
- 7) 落合恵美子：「21世紀家族へ」 有斐閣 (1994)